

2025 年 9 月 25 日
株式会社日本政策金融公庫

**担い手農業者の雇用環境、従業員 1 人当たりの所定内給与「上昇している」が 6 割超
～ 昨年比較では、稲作や酪農などで「上昇している」が増加 ～**
＜農業景況調査（令和 7 年 7 月調査）特別調査：雇用や労働力の状況について＞

日本政策金融公庫農林水産事業は、融資先の担い手農業者を対象に「農業景況調査」を実施しております。本調査による農業者の雇用状況 DI では、労働力不足を示す結果が長く続いていることから、特別調査として「雇用や労働力の状況」をテーマに調査しました。

調査結果のポイントは以下のとおりです。

＜経営に従事している常時従事者数＞

- 常時従事者数規模は、稲作や畑作、茶、果樹は、他の業種に比べて相対的に小さく、「5 人未満」の割合が 7 割超となりました。一方、施設花きやきのこ、養豚、採卵鶏は、他の業種に比べて相対的に大きく、「5 人以上」の割合が 5 割超となりました。
- 経営に従事している外国人材の人数は、稲作、畑作、果樹では「0 人」の割合が 9 割超となりました。一方、きのこや養豚、採卵鶏では、「1 人以上」の割合が約 5 割となりました。

＜常時従事者数：直近 1 年の変化＞

- 常時従事者数の直近 1 年の変化は、「増加している」が 14.4%、「減少している」が 9.3%となりました。
- 令和 6 年 7 月調査と比較すると、茶（9.4%⇒14.1%）、稲作（都府県、12.6%⇒15.4%）で「増加している」の割合が大きく上昇しました。

＜従業員 1 人当たりの所定内給与：直近 1 年の変化＞

- 農業全体における従業員 1 人当たりの所定内給与の直近 1 年の変化は、「上昇している」（65.3%）が 6 割超となりました。
- 令和 6 年 7 月調査と比較すると、農業全体では 6.8 ポイント上昇しており、業種別では、稲作、きのこ、酪農（北海道）などで、上昇幅が特に高くなりました。

＜労働条件・環境の改善に向けて取り組んでいること＞

- 「労働条件・環境の改善に向けて（直近 2～3 年の間で）取り組んでいること」としては、農業全体では「基本給や賞与の引き上げ」（66.7%）の割合が最も高く、次いで「機械化等による労働負荷軽減」（56.3%）、「労働・休憩時間の適切な管理」（44.7%）となりました。
- 業種別では、常時従事者数規模が他業種に比べて相対的に小さい稲作（北海道、都府県）、畑作では「機械化等による労働負荷軽減」が最も高くなりました。

■詳細は、添付のレポートをご参照ください。

農業景況調査（令和7年7月）

～特別調査：雇用や労働力の状況について～

～目次～

- I .経営に従事している常時従事者数・・・・・・・・・・ P3
- II .常時従事者数の変化・見通し・・・・・・・・・・ P4～5
- III .従業員1人当たりの所定内給与の変化・見通し・・・・・・ P6～7
- IV .労働条件・環境の改善に向けて取り組んでいること・・・ P8～9

○調査概要

- ・ 調査時期：令和7年7月
- ・ 調査方法：往復はがきによる郵送アンケート及びインターネット併用調査
- ・ 調査対象：スーパーL資金又は農業改良資金等のご融資先のうち20,194先
- ・ 有効回答数：5,201先（回収率25.8%）

（内訳）

稲作（北海道）：432、稲作（都府県）：1,281、畑作：383、露地野菜：501
施設野菜：498、茶：74、果樹：304、施設花き：148、きのこ：62、
酪農（北海道）：214、酪農（都府県）：223、肉用牛：394、養豚：200、
採卵鶏：116、ブロイラー：88、その他：283

※グラフに表示している構成比は小数点第2位以下を四捨五入しているため、各種合計値が合わないまたは100にならないことがある

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部（担当：高田、垣尾）TEL：03-3270-5585
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

I.経営に従事している常時従事者数(業種別)

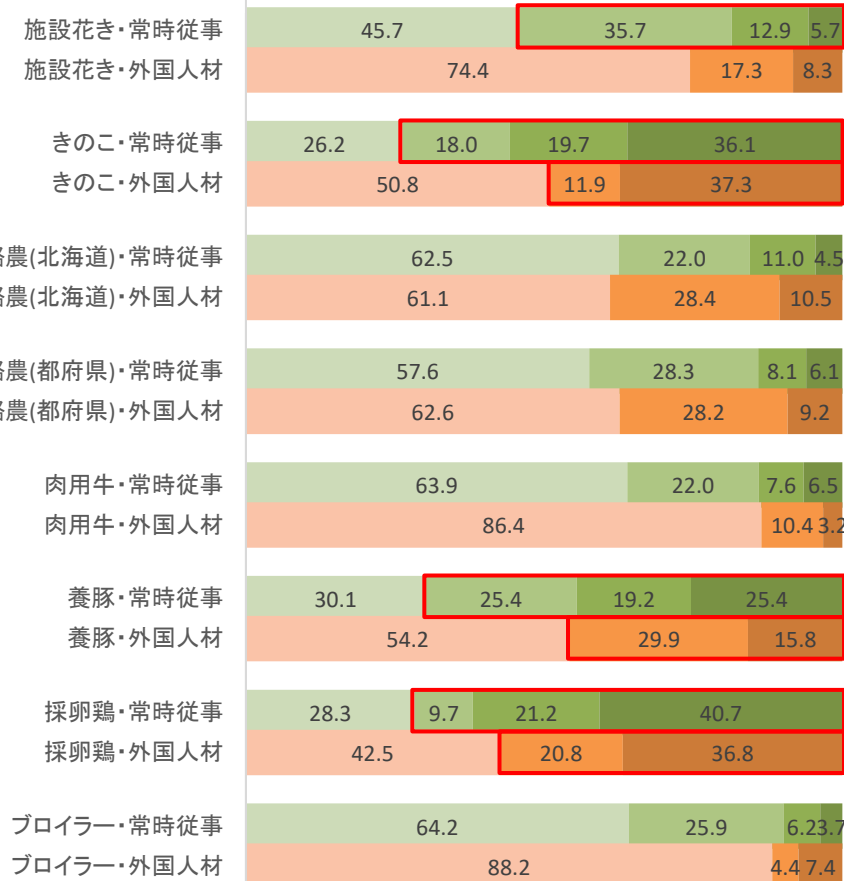
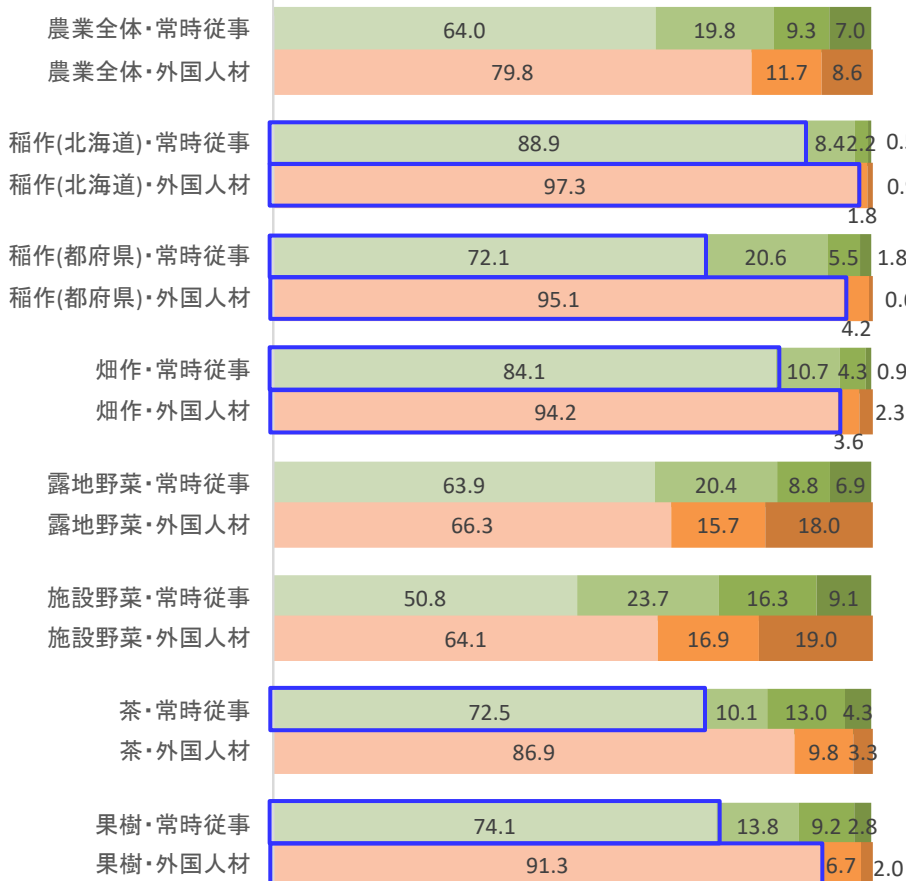
- ・常時従事者数規模は、稲作や畑作、茶、果樹は、他の業種に比べて相対的に小さく、「5人未満」の割合が7割超となった。一方、施設花きやきのこ、養豚、採卵鶏は、他の業種に比べて相対的に大きく、「5人以上」(※)の割合が5割超となった。(※「5～9人」、「10～19人」又は「20人以上」と回答した先)
- ・経営に従事している外国人材の人数は、稲作、畑作、果樹では「0人」の割合が9割超となった。一方、きのこや養豚、採卵鶏では、「1人以上」(※)の割合が約5割となった。(※「1～4人」または「5人以上」と回答した先)

常時従事(上段):

■ 5人未満 ■ 5～9人 ■ 10～19人 ■ 20人以上

外国人材(下段):

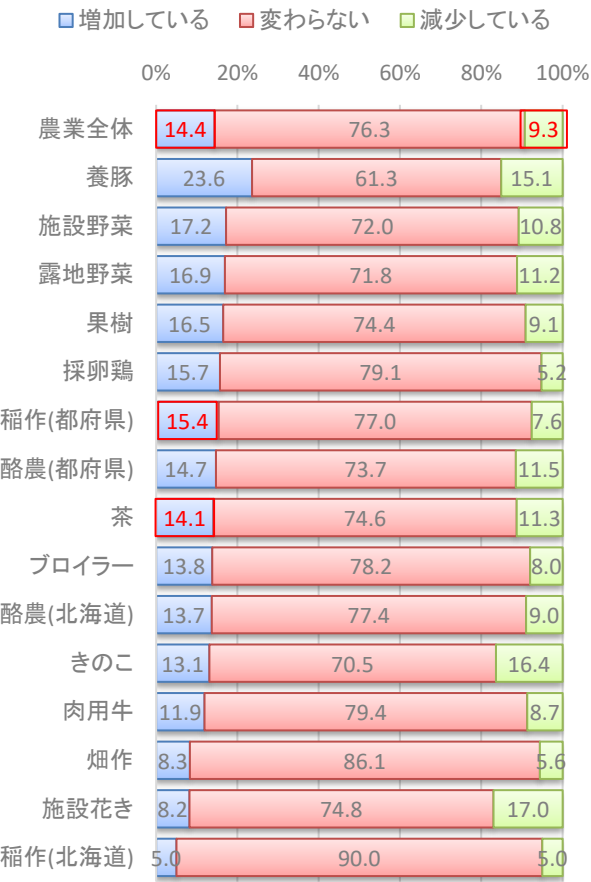
■ 0人 ■ 1～4人 ■ 5人以上



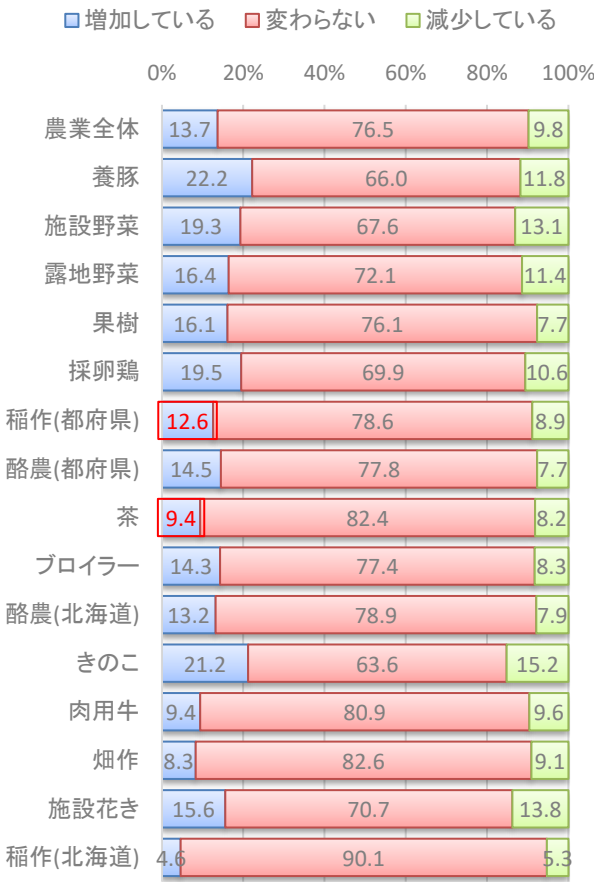
Ⅱ.常時従事者数の変化・見通し(業種別)

- ・農業全体における常時従事者数の直近1年の変化は、「増加している」が14.4%となり、「減少している」の9.3%より高い割合となった。
- ・令和6年7月調査と比較すると、「増加している」、「変わらない」、「減少している」のそれぞれの回答割合は、ほぼ横ばいで推移した。業種別では茶(9.4%⇒14.1%)、稲作(都府県、12.6%⇒15.4%)で「増加している」の割合の上昇幅が他業種と比べて大きかった。

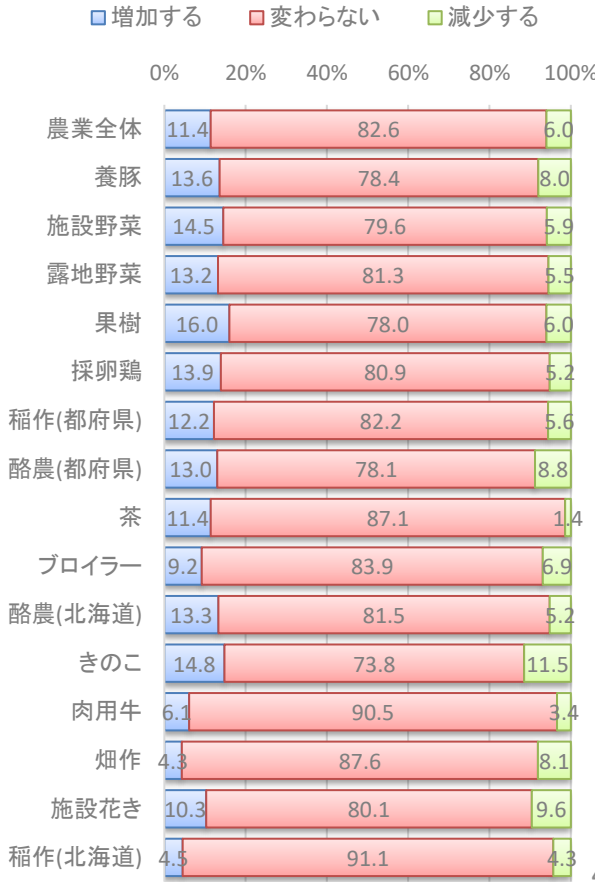
直近1年の変化(令和7年7月)



参考:直近1年の変化(令和6年7月)



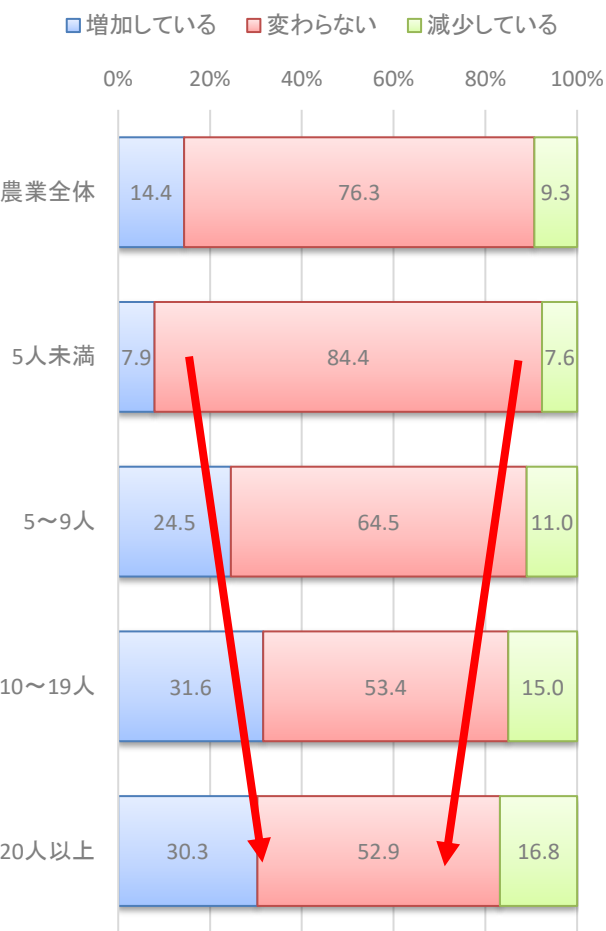
今後1年の見通し(令和7年7月)



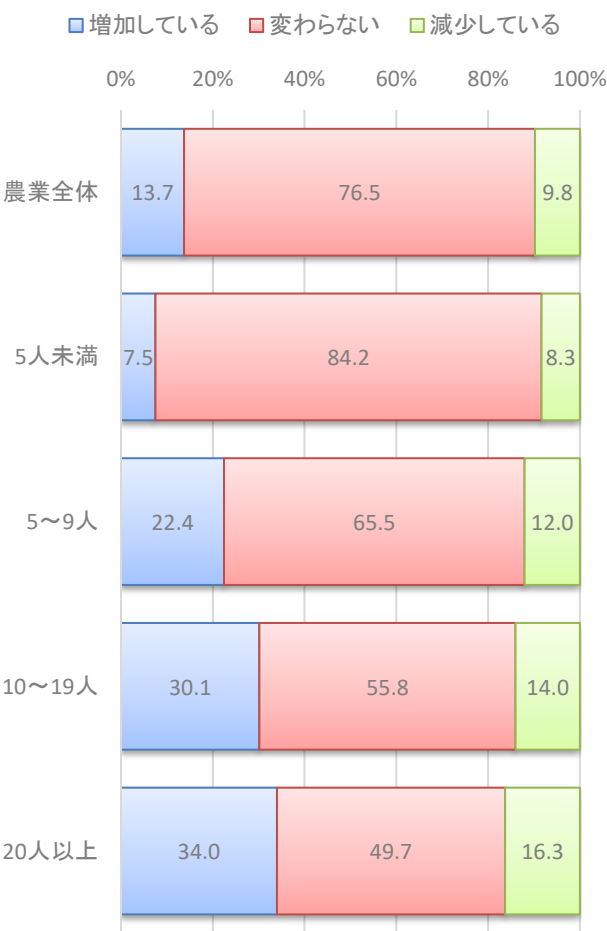
<参考> 常時従事者数の変化・見通し(常時従事者数規模別)

- ・常時従事者数規模別でみると、常時従事者数の直近1年の変化は、常時従事者数規模が大きいほど、「増加している」及び「減少している」と回答する割合が高い傾向となった。
- ・今後1年の見通しは、常時従事者数規模が大きいほど「増加する」及び「減少する」の割合が高くなった。

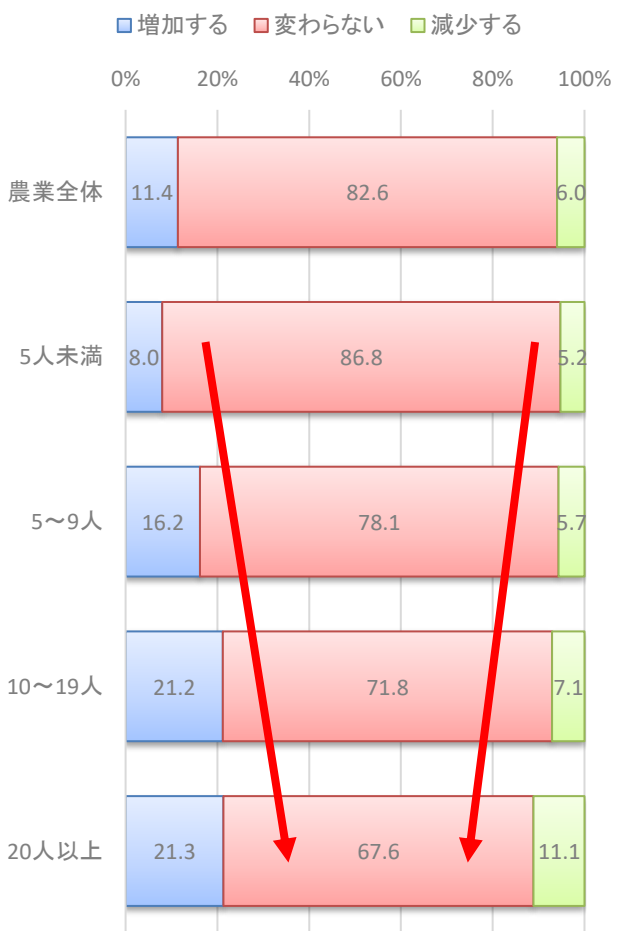
直近1年の変化(令和7年7月)



参考: 直近1年の変化(令和6年7月)



今後1年の見通し(令和7年7月)



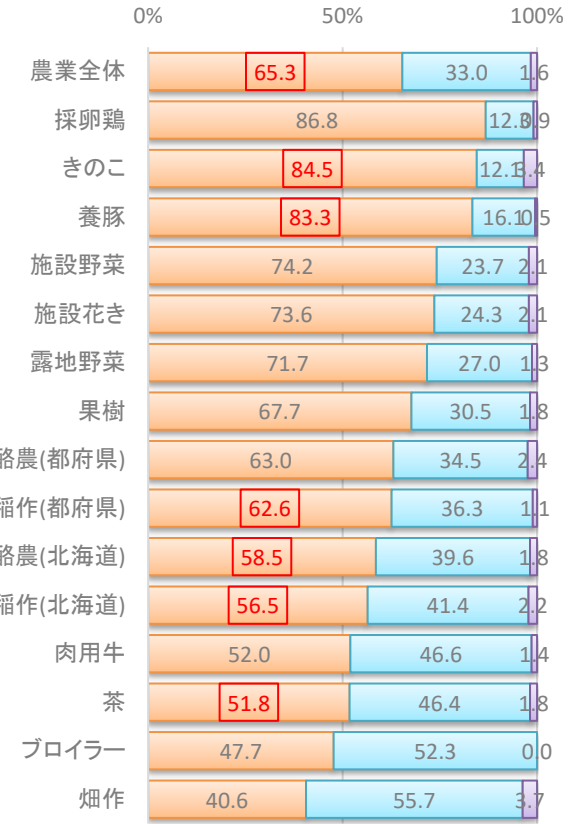
Ⅲ.従業員1人当たりの所定内給与(※)の変化・見通し(業種別)

※所定内給与:通常支払われる月々の賃金(通勤手当等含む)

- ・農業全体における従業員1人当たりの所定内給与の直近1年の変化は、「上昇している」(65.3%)が6割超となった。令和6年7月調査と比較すると、農業全体では6.8ポイント上昇しており、業種別では、稲作(北海道、都府県)、きのこ、酪農(北海道)などで、上昇幅が特に大きくなった。
- ・今後1年の見通しは、「上昇する」(61.9%)が引き続き6割超となった。直近1年の変化と比較すると、茶で「上昇する」(51.8%⇒58.9%)の回答の上昇幅が特に大きくなった。

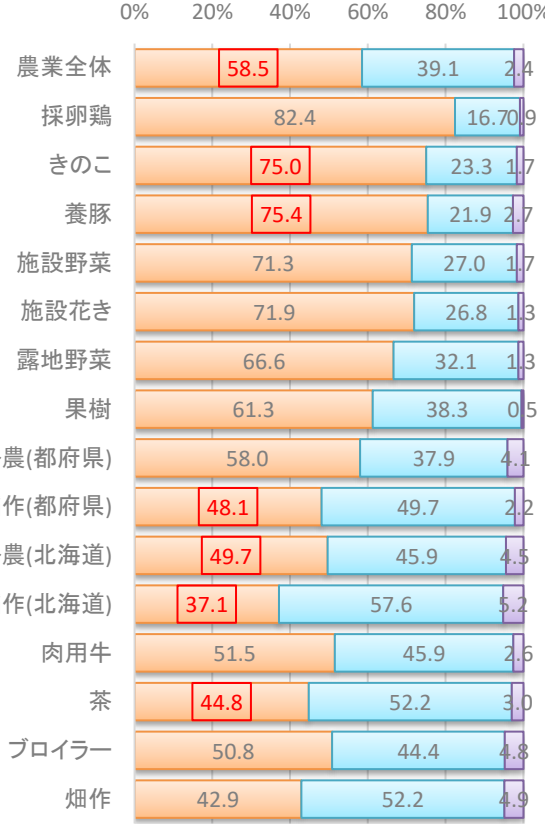
直近1年の変化(令和7年7月)

■ 上昇している ■ ほとんど変わらない ■ 低下している



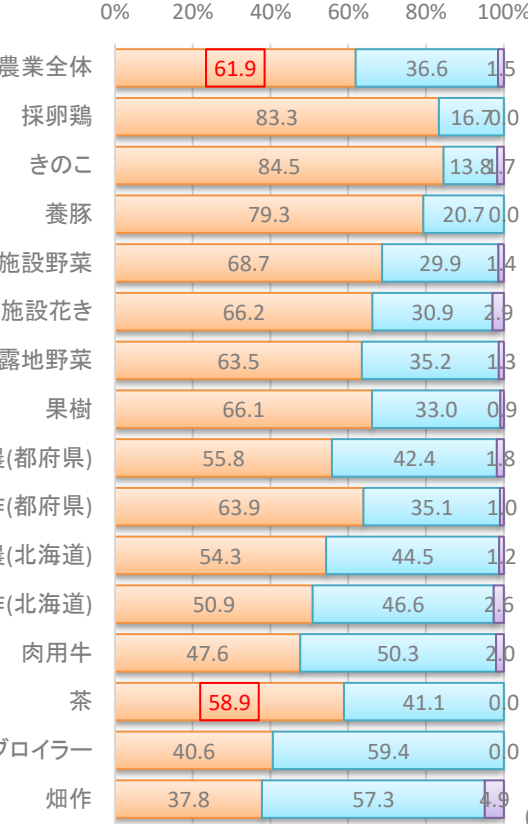
参考:直近1年の変化(令和6年7月)

■ 上昇している ■ ほとんど変わらない ■ 低下している



今後1年の見通し(令和7年7月)

■ 上昇する ■ ほとんど変わらない ■ 低下する



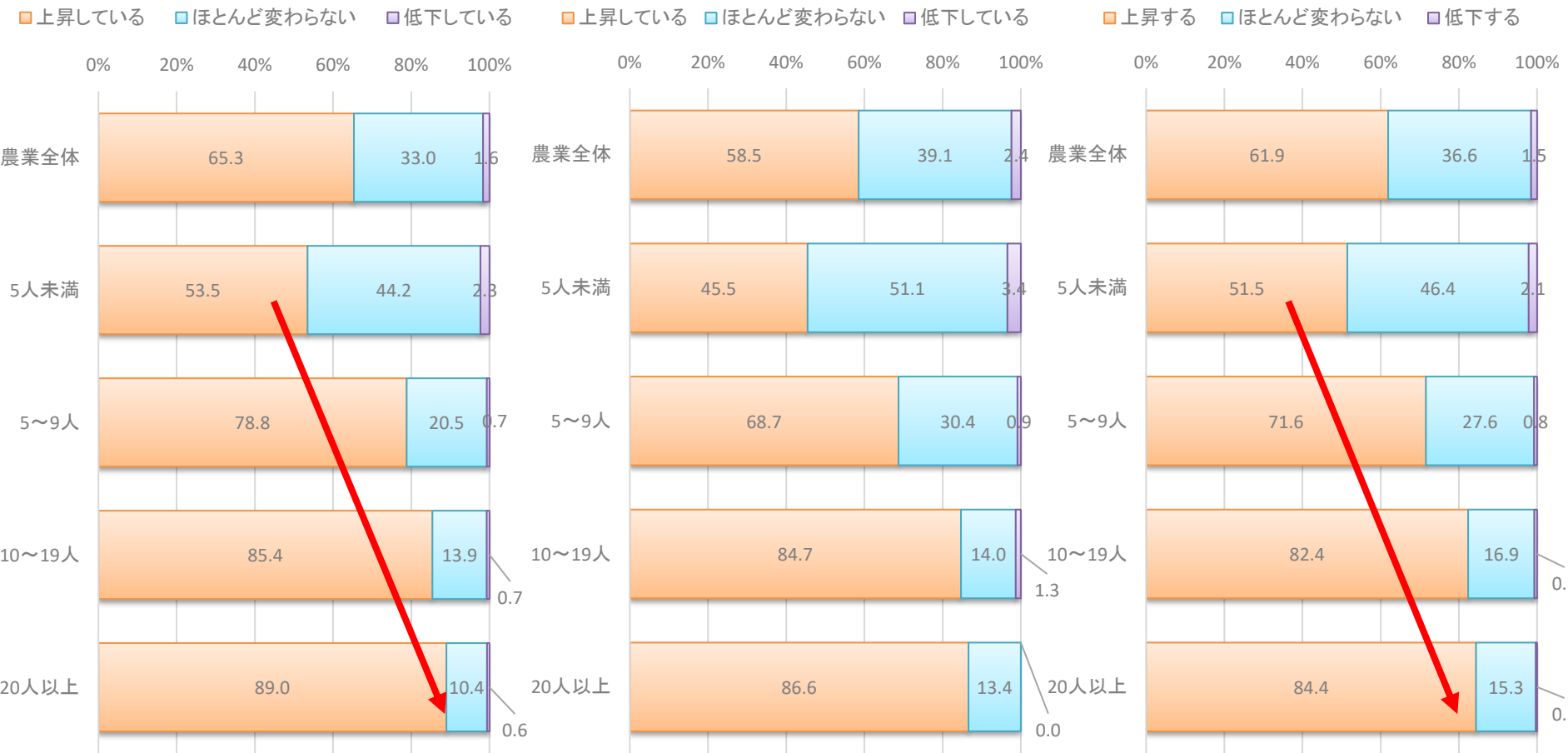
<参考>従業員1人当たりの所定内給与の変化・見通し(常時従事者数規模別)

- ・常時従事者数規模別にみると、従業員1人当たりの所定内給与の直近1年の変化は、常時従事者数規模が大きいほど「上昇している」の割合が高くなった。
- ・今後1年の見通しは、常時従事者数規模が大きいほど「上昇する」の割合が高くなった。

直近1年の変化(令和7年7月)

参考:直近1年の変化(令和6年7月)

今後1年の見通し(令和7年7月)



IV.労働条件・環境の改善に向けて取り組んでいること(業種・常時従事者数規模別)

- ・「労働条件、環境の改善に向けて(直近2～3年の間で)取り組んでいること」としては、農業全体では「基本給や賞与の引き上げ」(66.7%)の割合が最も高く、次いで「機械化等による労働負荷軽減」(56.3%)、「労働・休憩時間の適切な管理」(44.7%)となった。
- ・業種別にみると、常時従事者数規模が他業種に比べて相対的に小さい稲作(北海道、都府県)や畑作では、「機械化等による労働負荷軽減」が最も高くなった。
- ・常時従事者数規模が大きいほど、「基本給や賞与の引き上げ」や「職場環境設備等の充実」、「各種手当(通勤・住宅など)の充実」、「研修制度などのキャリアアップ支援」、「人事的な評価制度の整備」が高くなった。

【複数選択、単位：%】

業種	基本給や賞与の引き上げ	機械化等による労働負荷軽減	労働・休憩時間の適切な管理	職場環境(設備等)の充実	休暇制度の充実	各種手当(通勤・住宅など)の充実	時間外等の割増賃金の引き上げ	研修制度などのキャリアアップ支援	人事的な評価制度の整備	その他
農業全体	66.7	56.3	44.7	31.1	21.4	15.9	13.4	9.2	7.2	3.1
稲作(北海道)	60.4	67.1	36.7	24.7	12.7	6.4	8.1	5.3	2.8	2.5
稲作(都府県)	64.1	71.6	41.5	30.6	16.8	13.3	13.1	12.0	6.3	3.2
畑作	51.8	69.6	47.1	20.6	19.1	10.5	13.6	7.0	4.3	2.3
露地野菜	67.4	65.4	48.4	31.9	24.0	17.3	14.8	7.9	7.4	3.2
施設野菜	67.2	39.8	52.0	36.3	22.7	15.7	17.3	8.2	7.7	3.5
茶	64.3	58.9	42.9	30.4	28.6	14.3	7.1	5.4	0.0	5.4
果樹	68.2	51.9	46.4	36.5	21.5	16.7	11.6	9.9	9.0	4.7
施設花き	68.7	35.9	50.4	35.1	26.0	19.1	15.3	4.6	2.3	3.1
きのこ	86.4	30.5	33.9	35.6	18.6	16.9	11.9	1.7	10.2	1.7
酪農(北海道)	67.1	42.2	47.2	31.7	24.8	21.7	18.6	8.1	8.1	4.3
酪農(都府県)	64.8	46.7	40.0	25.5	21.8	18.2	15.2	10.3	9.1	3.6
肉用牛	59.1	51.5	47.4	31.3	27.5	18.9	11.0	7.2	5.5	2.7
養豚	83.8	38.0	47.5	34.6	29.6	29.1	16.2	12.8	17.3	2.2
採卵鶏	88.2	48.2	36.4	29.1	22.7	17.3	10.0	16.4	10.0	1.8
ブロイラー	70.6	47.1	33.8	36.8	27.9	17.6	13.2	4.4	7.4	1.5
常時従業者数規模区分	基本給や賞与の引き上げ	機械化等による労働負荷軽減	労働・休憩時間の適切な管理	職場環境設備等の充実	休暇制度の充実	各種手当(通勤・住宅など)の充実	時間外等の割増賃金の引き上げ	研修制度などのキャリアアップ支援	人事的な評価制度の整備	その他
農業全体	66.7	56.3	44.7	31.1	21.4	15.9	13.4	9.2	7.2	3.1
5人未満	56.1	60.1	42.3	27.8	17.0	12.1	11.5	7.6	4.1	3.0
5～9人	80.2	51.8	48.4	33.7	26.2	19.8	15.6	9.5	7.4	3.0
10～19人	85.8	51.7	51.3	37.4	32.7	23.9	20.0	14.6	11.6	2.8
20人以上	90.1	48.0	43.0	39.6	22.0	24.8	11.5	16.4	23.5	2.2

<参考>労働条件・環境の改善に向けて取り組んでいること(景況の回答別)

・景況に関する設問の回答別に、「労働条件、環境の改善に向けて(直近2～3年の間で)取り組んでいること」をみると、景況が「良くなった」と回答した経営体の方が、「基本給や賞与の引き上げ」や「機械化等による労働負荷軽減」と回答した割合が高くなった。

【複数選択、単位：％】

景況区分	基本給や賞与の引き上げ	機械化等による労働負荷軽減	労働・休憩時間の適切な管理	職場環境設備等の充実	休暇制度の充実	各種手当通勤・住宅などの充実	時間外等の割増賃金の引き上げ	研修制度などのキャリアアップ支援	人事的な評価制度の整備	その他
農業全体	66.7	56.3	44.7	31.1	21.4	15.9	13.4	9.2	7.2	3.1
良くなった	73.8	60.2	42.5	32.8	21.8	17.8	13.8	11.3	8.4	2.9
変わらない	63.7	56.2	45.0	30.3	20.5	14.6	12.8	8.7	7.0	3.0
悪くなった	63.5	51.0	47.2	30.4	23.1	16.2	13.9	7.7	5.9	3.4

<農業景況DI(業種別)>

	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年 上半期実績	R7年 見通し
農業全体	▲ 24.9	▲ 29.6	▲ 39.1	▲ 26.9	10.5	6.6	7.0
稲作(北海道)	▲ 3.6	▲ 55.2	▲ 44.3	▲ 49.3	64.8	34.4	22.3
稲作(都府県)	▲ 33.4	▲ 55.9	▲ 39.5	▲ 22.1	50.8	33.5	38.1
畑作	▲ 32.3	0.2	▲ 31.8	▲ 49.2	▲ 29.0	▲ 37.0	▲ 47.7
露地野菜	▲ 32.8	▲ 21.4	▲ 15.5	▲ 17.5	7.3	▲ 5.8	▲ 9.7
施設野菜	▲ 28.1	▲ 32.3	▲ 28.8	▲ 11.7	5.1	▲ 9.0	▲ 3.3
茶	▲ 78.0	▲ 0.9	▲ 15.5	▲ 31.2	▲ 3.0	44.6	54.1
果樹	▲ 16.8	11.9	▲ 7.7	▲ 2.7	▲ 4.1	▲ 2.0	▲ 2.3
施設花き	▲ 40.2	5.8	▲ 3.2	▲ 19.5	▲ 36.5	▲ 43.9	▲ 42.5
きのこ	3.0	▲ 40.8	▲ 59.8	▲ 7.7	4.8	17.7	▲ 3.3
酪農(北海道)	▲ 19.3	▲ 32.8	▲ 87.7	▲ 56.8	▲ 28.2	13.5	10.3
酪農(都府県)	▲ 16.4	▲ 39.5	▲ 84.8	▲ 45.7	▲ 29.7	3.6	21.2
肉用牛	▲ 43.9	▲ 3.1	▲ 62.0	▲ 52.1	▲ 37.7	▲ 17.8	▲ 15.2
養豚	44.3	▲ 36.4	▲ 74.2	▲ 31.7	4.7	14.6	18.6
採卵鶏	▲ 43.8	22.6	▲ 65.4	65.1	▲ 41.2	34.0	22.8
ブロイラー	6.4	▲ 2.1	▲ 41.1	▲ 14.7	▲ 28.7	▲ 14.8	▲ 12.7

※景況DIは農業経営が「良くなった・良くなる」とする構成比(％)から「悪くなった・悪くなる」とする構成比(％)を差し引いたもの